日本橋浜町プラザマームに問屋、メーカーが大集結

公式サイトの
QRコードはこちら！

第8回 東京カジュアルキモノ展

10月20日（火） 9時半～18時
10月21日（水） 9時半～17時

今回はオンラインで参加が可能！YouTubeで会場内の風景と講習会を生配信！
お店に居ながら参加出来る東京カジュアルキモノ展！

各社自信の秋冬物新作カジュアルが勢ぞろい

カジュアルキモノプロジェクト（東京・三勝㈱内）は10月20・21日の2日間、プラザマーム2F（東京都中央区日本橋浜町1-1-12 プラザANSビル）で「第8回東京カジュアルキモノ展」を開催する（協賛：東レ、後援：東京織商）。

2017年から始まり、今回で8回目となる東京カジュアルキモノ展は日本で唯一のカジュアルキモノ合同展として、数多くメーカーや問屋が大集合する。

今回の目玉は、アフターコロナ関連の2つの新企画を実施、1つは「新しい作戦を有するリーダーの講習会」。2つ目は「WEB時代の対応法」。このテーマに沿った講習会を2日間にわたって開催する。

①20日（火）午前11時から児玉健作氏（染織こだま代表）は全国をめぐり、カジュアルきものにふれられる機会づくりしてきた。氏からはカジュアルきもの人口の増加要件や逆に増えにくい条件などを話してもらう。

②20日（火）午後2時からは小磯卓也氏（㈱Personal Marketing代表、一般社団法人七夕協会代表）がビジネスの原理原則「ATSUMARU」、勝手にお客様が集まる原理原則について語る。

③21日（水）午前11時STARTはBリレーション代表、窪田勉氏が「コミュニティの時代が到来、リアルとITの組み合わせできもの文化の〝場〟を創造せよ」をレクチャーする。

④21日（水）午後2時からは「きもの屋ゆめこもん」代表の中村篤氏がテレビの番組制作業からきもの屋に転身した経歴の下、SNSを駆使して一味違う店舗情報を伝えている。中村氏の番組制作の経験を活かした動画づくりのポイントを紹介する。

オンラインを併用して開催

今回は新型コロナウイルスが感染拡大する中、感染症対策として展示会をオンラインでの配信を併用して開催することを決定した。

感染が気になりどうしても会場に行くことが出来ない方、遠方のため来場を控えた方のために、展示会場の様子と講習会をYouTubeでライブ配信し、展示会2日間の臨場感を届ける。また、LINEのビデオ通話機能を利用し、出展担当者と顔が見える1対1トーク。さらに、ブース・商品がその場で見られるコミュニケーション方法が動画配信機能を使うことで、展示会当日でも後日でも企業概要が共有できる体制を取り入れた。

詳細はQRコードから公式ホームページにアクセスして見ることが出来る。

また、感染予防の観点から来場と講習会の「事前参加登録」を呼びかけている。ホームページにアクセスしてお問い合わせフォームから来場日、参加される講習会を記入して申し込む。

新型コロナウイルスが感染拡大する中で政府、自治体が発表するガイドラインを遵守して開催する。会場内ではスタッフのマスク着用、検温、定期的な手洗い、うがいと会場内の換気を徹底する。来場者にはマスクの着用と入場時の検温と手の消毒をお願いし、当日の発熱、咳、体調不良などの場合は来館を見合わせてもらう。なお、状況によりイベントが開催できない場合はSNSなどで随時発信する。

天野豊代表世話人は「今、コロナ禍によってきもの業界は沈着している。きものの最大消費地東京が元気にきもの文化を発信しています。20、21日はたとえ東京に来られなくともYouTubeで会場の様子と講習会を見ていただきたい」と話す。

〝カジュアル〟とは、〝ファッション〟そのもの。自分による、自分のための装い、それこそカジュアル。着て楽しくなるような着物、帯、小物が一同に集まる。しかし、あくまでご覧いただいている業者向けの展示会で、「長い歴史があるきもの、和装産業の中で古くからの伝統や格式を守ることは大切だが、洋装にドレスコードがあり、フォーマルとカジュアルの区別があるように、きものの分野でもっとカジュアルの視点に立った、着る人がもっと自由に好きなようにきものを楽しむことが出来る商品企画があっても良いのではないか」。24社が参加してたとえコロナの中にあっても、この秋冬をおしゃれに装えるおしゃれなきものの提案をご覧いただきたい。

■問合せ：カジュアルキモノプロジェクト
三勝㈱内 TEL03・3661・8859